

### 民族の大移動

テレビに映し出される移民・難民の群れを観ていると、幼い子供連れが多い。11歳以下が、全体の39%を構成しているという。親たちも30歳代が多く見られる。と思ったところで、70年前、満州・中国・朝鮮など外地から内地を目指した人々も、あのような様子ではなかったかと他人事は思われなかった。ソ連による非情な攻撃で、もっと悲惨な状況であったであろう。

家族を懸命に守りながら、幼い子供連れの親たち、それらの背後には、新天地を目指すことができない悲惨な人々が大勢取り残されているはずである。

この難民たちは、意外なほど荷物を持っていない。でも、国を出発のときには持っていたのかもしれない。途中で追われて走るときに、荷物を捨てたのかもしれない。しかし、携帯電話を持っている人は多い。情報収集と家族や友人との連絡に威力を発揮する命綱であろう。充電はどうしているのか、使用継続のために、月々の支払いはどうなっているのだろうか？



映像で大行進を観ると、過去にもあったかと思われる歴史の1コマを観る思いである。レバノンやシリアと言えば、ヨーロッパとアジアを結ぶ東西交流の要衝の地で、通商や駆け引きに長けた民族である。「レバ・シリと握手したら、指を取られていないか、数えてみろ」というジョークがある。戦略上の要衝の地で、争奪の騒乱・戦乱が絶えない歴史がある。

**下記のアドレスを「https」にコピー（またはクリック）して、表示されたファイルの中から写真画面の「View Photos」「Play Video」「View Video」などをクリックする。現れた写真内の右側にカーソルを置いて、「>>」をクリックすると、多数の写真やビデオを見ることができます。写真などの内容は、日々更新されているようで、重複している写真があるかもしれません。**

[https://www.washingtonpost.com/world/europe/germany-open-to-500000-refugees-each-year-as-crisis-grows-on-continent/2015/09/08/4eb04202-6820-4f8e-a43b-438dee388074\\_story.html](https://www.washingtonpost.com/world/europe/germany-open-to-500000-refugees-each-year-as-crisis-grows-on-continent/2015/09/08/4eb04202-6820-4f8e-a43b-438dee388074_story.html)

紀元前1世紀のころ、ある部族（ヘルウェティー族）は、リーダー（オルゲトリクス）を選び、人口が増えても豊かに暮らせる土地を求めて故郷を出ることにした。

大移動に必要な駄馬や荷車を多数買い集め、移動中の食糧確保のために、畑にたくさん種を撒いた。2年間準備して、3年目に出発した。他部族との戦いに備えて、近隣の部族にも声をかけ、他を圧倒できる人数を揃えて出発した。

出発に際し、12の町と40の村の家々に火を放ち、持って行けない物はすべて焼き払い、どのような困難に遭遇しようとも再び帰らない決意で故郷を後にしたストーリーで「カサエル戦記：カサエル著」は書き始められている。

ローマは、スパルタとの戦いで敗れたトロイの落ち武者たちが、地中海をさまよいたどり着いて作った。フィンランド人の祖先は、約1万年前、バルト海周辺を経て現在の場所へ移動してきた。トルコは、紀元前3世紀ごろ、中央アジアの騎馬遊牧民族が移動して建国した。ヨーロッパには、そのような民族の悠久の歴史がある。

南米や北米の諸国は、ヨーロッパからの流入者が原住民を淘汰して建国した。日本は満州へ版図の拡大を試みて失敗した。歴史には最終章はない。次々と、新しい頁が書き加えられている。歴史は、日々、新たなり。

## 移民か難民か

移民・難民の多くは、トルコからギリシャ、マケドニア、セルビアなどバルカン半島を経て、ハンガリーを通過、ドイツ、オーストリア、スウェーデンを目指した。

移民・難民の出身国は、シリア、イラク、アフガニスタンが多く、ソマリア、その他のアフリカ。

日本では、シリアおよび周辺諸国からヨーロッパへ押し寄せた人々を「難民」と報ずることが多い。しかし、「難民；refugee」と

「移民（移住者）：migrant」は異なる。

## Primary migration routes into Europe



---

「難民」とは、母国での戦争または迫害に直面していることを証明できる人々。1951年、難民条約（Refugee Convention）は、母国で、人種・宗教・国籍・政治信条などで迫害・脅迫を受け、それを自力で回避できない人々と定めている。

「難民」は保護され、危険がある母国に送り返すことはできない。「亡命者：asylum seeker」は「難民」である。

一方、移民は、貧困から脱出し、裕福になるチャンスを求めている人々で、先に移住した親・子供・兄弟・親戚を頼ってやって来る。押し寄せられた国は、難民ではなく移民として扱いたがる。戦争・紛争地域以外からの人々は難民とは認定されにくい。

[https://www.washingtonpost.com/world/kerry-sees-talks-with-russia-over-islamic-state-fight-in-syria/2015/09/18/7bac9818-5cc0-11e5-8475-781cc9851652\\_story.html?wpmm=1&wpisrc=nl\\_evening](https://www.washingtonpost.com/world/kerry-sees-talks-with-russia-over-islamic-state-fight-in-syria/2015/09/18/7bac9818-5cc0-11e5-8475-781cc9851652_story.html?wpmm=1&wpisrc=nl_evening)

チェコ共和国とスロバキアの指導者は、難民受け入れの割当て人数を拒否した。特にスロバキアは、少人数、それもクリスチャンのみの受け入れを表明した。これは、事実上、イスラム教徒であるシリアからの亡命者を拒否するものである。

イスラム教徒は世界人口の4分の1を構成し、1日5回メッカへ向かって礼拝（飛行中の機内でメッカの方向を指すコンパスを作って財をなした人がいる）、（定められた儀式と手順で処理された）ハラール食品でなければ食べないなど、厳しい戒律を守っている。難民受け入れは、そのような習慣（戒律）も受け入れるということである。

昨年、日本は国連難民高等弁務官事務所に1億8,160万ドルを寄付した。これは米国に次ぐ多額であった。今年の初め、安倍晋三首相は、エジプト訪問に際し、IS（イスラム国）から追い出される難民への援助として寄付2億ドルを申し出た。はたして、それがどのように使われたのであろうか。



日本は、難民申請5,000人に対して11人しか認めていない。日本の難民受け入れが少ないと言う人々が国内外にいる。先進富裕国では、ロシア、シンガポール、韓国なども難民を受け入れていない。

日本の人口は2050年には、現在の1億2,700万人から9,500万人へ減少し、人口の40%が65歳以上になる。また、800万戸の空き家（ghost homes：ニューヨークタイムスの表現）があり、人口は減少傾向で、都市部へ移動していると書きたてている海外紙がある。米国には、シリアは遠方であり、すべてヨーロッパの責任だという

---

考える人がいるのも事実である。

中東での紛争は、英国とフランスの旧植民地で起こっている。結果論で言えば、第2次大戦後、英国やフランスは旧植民地間で紛争が起こる火種を放置して引揚げた。米国はイスラエルを過度に支持して、紛争を煽っているとしか思われぬ。国際問題の中心には、国益追求のエゴの戦いである。これは、グローバリズムの常識であり、国家として正しい行動であり、そうでなければならない。

今年、約 332,000 人が押し寄せ、9月初め、ギリシャ、イタリア、ハンガリーの流入最前線諸国には約 160,000 人がドイツなどへ行くために待機した。これらの数字は実際よりも少なく発表されたと言われている。

ドイツは 80 万人を受け入れるとか、難民には月 400 ドルを支給などと伝えられ、流入者の数を増やした。状況は、常に変化し、流動的で時々刻々変化する。水は低きに流れ、移民・難民は住みやすき国に流入する。これには際限がない。